

県央地域の一部において発生が確認されました

ナガエツルノゲイトウは早期発見・駆除が重要です

刈払い作業は生息域が拡大するおそれがあります。

圃場や畦畔で発生が確認された場合は、除草剤等で防除してください。

ナガエツルノゲイトウは、茎や根などの小さい断片でも再生し、すぐに繁茂してしまいます。水路、水田畦畔、畑地や法面の陸地でも生育することができ、水田に侵入されると、稲の生育阻害や圃場における作業効率の低下等を引き起こすおそれがあります。

畦畔での発生



葉の特徴



節から1対の葉

茎の特徴



茎は空洞(ストロー状)

花の特徴



花柄は葉のわきから伸びる

水田や畦畔でふやさない<発見したらすぐに対応!!>

【抜き取り・剥ぎ取りによる駆除】

・植物の断片が残らないように駆除し、ブルーシートの上に置くな
どして枯らしてから自治体のごみ処理方法に従って処理。

・**発生場所では刈払機等は使わない！** 小さな茎や根の
断片から再生し、繁茂の原因となります。

【除草剤による防除】

・**本田・畦畔での防除は、下記の成分を含む除草剤が有効！**



本田・畦畔防除に有効な除草剤

作物名	使用場所 ・使用時期	成分名等
水田作物	畦畔（通年）	非選択性茎葉処理剤（グリホサートカリウム塩液剤等） （商品名：ラウンドアップマックスロード等）
水田作物	刈取後～本田耕起前 （雑草生育期）	非選択性茎葉処理剤（グリホサートカリウム塩液剤等） （商品名：ラウンドアップマックスロード等）

※資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。また、河川敷や水路など水系に流れ出るおそれのある場所では使用しないでください。

○ナガエツルノゲイトウの判別や防除方法に関するお問い合わせ先

【農地で発見した場合】

県央農林事務所 経営・普及部門

TEL:029-227-1521

※ナガエツルノゲイトウは特定外来生物に指定されているため、生きたままの保管・運搬等は法律により禁止されています。

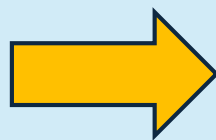
水田におけるナガエツルノゲイトウの防除

水稻収穫後の水田管理について



①

収穫後の圃場に除草剤を散布



②

除草剤の散布後約1ヶ月に秋耕起

①非選択性除草剤の散布

水稻収穫の約1か月後から霜が降りるまでの間にラウンドアップマックスロードを水田刈跡の多年生雑草に対する農薬登録内容に従い、薬量1,000ml/10a、水量50～100L/10aで散布します。薬液がナガエツルノゲイトウの茎葉部に直接かからないと防除効果は期待できません。稲わらを均一に散らして、稲わらがナガエツルノゲイトウを覆わないように注意してください。

②秋耕起

除草剤の効果が現れた散布約1か月後以降に耕起(耕深約15cm)を行います。

※ナガエツルノゲイトウが確認された圃場では除草剤散布前に絶対に耕起しない。

※留意点 拡散防止(通年)

- ・農機に付着した茎断片を拡散させない作業手順の工夫(例:未発生ほ場から作業を実施する)
- ・機械洗浄の励行

水田畦畔における防除について



ナガエツルノゲイトウが確認された畦畔では、再生能力のある断片を生じさせる刈払い機や畦畔草刈機による管理を避け、除草剤を中心とした防除を行います。

※資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。また、河川敷や水路など水系に流れ出るおそれのある場所では使用しないでください。

※れんこん等の生育を阻害するおそれがあるので、れんこん等の隣接田で使用する場合は、十分に注意してください。